

第5回文京区都市マスタープラン見直し検討協議会 議事録(要旨)

1 日 時 令和5年10月24日(火) 10時00分から11時30分まで

2 場 所 文京区シビックセンター24階 区議会第1委員会室

3 出席者 【委員】21名(内1名欠席)

村木会長(学識経験者)

谷口副会長(学識経験者)

加藤委員(学識経験者) ※欠席

西浦委員(学識経験者)

村山委員(学識経験者)

綾井委員(区民(団体推薦))

新井委員(区民(団体推薦))

小能委員(区民(団体推薦))

杉田委員(区民(団体推薦))

山本氏(吉岡委員(区民(団体推薦))代理)

一針委員(区民(公募))

鈴木委員(区民(公募))

高橋委員(区民(公募))

福富委員(区民(公募))

福本委員(区民(公募))

大川委員(区職員)

鵜沼委員(区職員)

高橋委員(区職員)

澤井委員(区職員)

吉田委員(区職員)

木幡委員(区職員)

【事務局】

文京区企画政策部企画課長 横山課長

文京区総務部防災課長 齊藤課長

文京区区民部区民課長 榎戸課長

文京区区民部経済課長 川崎課長

文京区アカデミー推進部観光・都市交流担当課長 岡崎係長（堀越課長代理）

文京区福祉部福祉政策課長 木村課長

文京区福祉部障害福祉課長 橋本課長

文京区子ども家庭部子育て支援課長 篠原課長

文京区都市計画部都市計画課 佐久間課長

文京区都市計画部地域整備課 前田課長

文京区都市計画部住環境課 吉本課長

文京区都市計画部建築指導課 川西課長

文京区土木部管理課長 福澤課長

文京区土木部道路課長 村岡課長

文京区土木部みどり公園課長 村田課長

文京区資源環境部環境政策課長 橋本課長

文京区施設管理部保全技術課長 五木田課長

文京区教育推進部教育総務課長 宇民課長

株式会社首都圏総合計画研究所

【傍聴者】 9名

4 次 第

(1) 開会

(2) 議題 「パブリックコメント、オープンハウス型説明会等の実施結果について」
「都市マスタープラン素案について」

(3) その他

(4) 閉会

5 議 事

(1) 議題 「パブリックコメント、オープンハウス型説明会等の実施結果について」

・事務局より資料1～4について説明

○**福富委員** 大学やデベロッパー等個別のグループに対するヒアリングは実施したのか。

現行の都市マスタープランの「安全で快適な魅力あるまちづくり」というキャッチフレーズは変える予定はないのか。

○**佐久間事務局** 都市マスタープランの見直しに当たって、事前にアンケート調査を事業者

についても行っているが、個別に意見を聞くようなことは行っていない。ただ、今回実施したパブリックコメントでは特定の事業者の方からいただいた意見もある。

○福富委員 大学はどうか。

○佐久間事務局 大学からもパブリックコメントで意見をいただいております、他の意見と同じように区としての回答を作ってパブリックコメントとして公表している。キャッチフレーズについては、今回は都市マスタープランの見直しであるため、これまでのものを継承する予定で、今のところは変更を考えていない。

○西浦委員 進捗管理を「文の京」総合戦略（以下、「総合戦略」という。）と連携して実施するという説明があったが、総合戦略はKPIで定量的評価をしているが、都市マスタープランではそのようにはいかないため、短期、中期、長期等のように戦略の各項目に優先順位を付けPDCAを回していく方法等を考える必要がある。グリーントランスフォーメーションやWell-being等の視点を入れるべきであるとのパブコメの意見があったが、それら进行评估するために、慎重に体制や軸を作っていく必要がある。都市マスタープランには10年、20年先を見据えた施策も入っているため、その辺りは慎重にやった方がよい。総合戦略と連携は多くの自治体で行っているが、その方法については少し考えた方がよい。

○佐久間事務局 進行管理については素案の6章で記載しておりその中で議論したい。指摘の通り、都市マスタープランは都市計画に関する方針を示すものであるため、その中で進行管理を行うことは難しい。総合戦略や個別の計画の中で都市マスタープランに関連する事業の進行管理を実施しており、それらを踏まえながらアンケート調査等を組み合わせ、協議会の意見を踏まえて進行管理について検討していきたい。指標についても事務局で検討したが、指摘のように記載の仕方が難しいと感じている。

○村木会長 素案の最後に進行管理について記述しているが、都市マスタープランではこの程度の記載に留め、詳細は別途立ち上げる会議体で、進行管理の際にどのようなデータを取るか等、議論するという考えなのか。

○佐久間事務局 具体的な指標の取り方や調査の仕方について、どこまで都市マスタープランに盛り込むのかを検討している。本文の記載と同じレベルで指標について記載するのは難しいため、巻末に参考資料を添付する等の方法を検討したい。

○村木会長 都市マスタープランを既に策定した自治体では、進行管理について別途委員会を立ち上げたり都計審で報告したりしている。先ほどの西浦委員の指摘の通り、指標は必ずしも数字で取れるものとは限らないが、アンケートで評価するのが望ましいのかについても考えた方がよい。他区での取り組みも参考にしてほしい。

○村山委員 パブリックコメントでは建築物の高さに関する意見が多く出され、それに対して「ご意見を参考として素案に向けて引き続き見直しの検討を進める」という回答だが、資料1の69ページの311番の意見は大学からの意見で、土地利用に関する意見と地域まちづくりを支援する取り組みに関する意見である。1点目の土地利用に関する意見は内容が的確だと思うが、それに対して「意見を参考にして引き続き見直しの検討を進める」とは回答していない。最終的にこの提案を採用するかどうかは別として、少なくとも検討すべきだと思う。

○佐久間事務局 311番の「区の考え方」の最後に「ご意見を参考にして素案に向けて引き続き見直しの検討を進めてまいります」と、全体をイメージして回答している。意見については基本的に検討する予定である。

○村山委員 日本語としては伝わりにくいと思う。311番の意見の中には2つの意見があるので、2点とも検討するという書き方に変えていただきたい。

○福富委員 高さ制限は各自治体で実施しているが、京都等では、高さ制限を設けた後、街の活性化のためにはある程度高さ規制を緩めるところも必要ではないかという意見が、住民の間から出ている。やはり弾力的な見直しは継続的に必要だと思う。

○佐久間事務局 高さ制限について、具体的には4章で記載をする予定であり、今回の素案では記載していない。平成26年まで4年かけて区全体に高さの制限を設け、その一方で、地域ごとに地区計画を定めて、地域ごとの特色を踏まえて高さの制限を超えるまちづくりを進めている。全体としての高さ制限を見直す必要があるのかについては、地区計画の動き等を踏まえて注意深く進める必要があると思う。

(2) 議題「都市マスタープラン素案について」

- ・事務局より資料5について説明

○谷口委員 意見を取り入れて抜本的に変えた内容が多く、クオリティーが高くなったと感じた。将来都市構造図についても違和感がない感じになった。

素案の72ページでは将来都市構造図が唐突に出てくる感じがするため、前の流れの中から将来都市構造図につながるように、つなぎの文章を入れた方が良い。

72ページの「都市交流ゾーン」の名称が「都市交流ゾーンA」「都市交流ゾーンB」となっているが、ここだけアルファベットであることに違和感がある。

73ページでは、「主要交通ネットワーク」が一番下になっているが、「主要交通ネットワーク」が示す公共交通は移動のベースだと思うので「都市軸」よりも上に記載した方が良い。

73 ページの「みどりの拠点」および「みどりの軸」の凡例の色が合っていない。将来都市構造図の幹線道路、神田川、崖線となっている色が 73 ページに入ってきている。他にも気になる箇所あるため、その辺の完成度を上げてほしい。

○佐久間事務局 指摘のとおり、将来都市構造図に関する流れやつながりについては引き続き検討を進める。都市交流ゾーンAとBについては、良い名前が決まらず現在の形に至っている。交通ネットワークと低層住宅地区、みどりの軸等の順番や凡例の色等についても、内容の確認をして修正していきたい。

○綾井委員 将来都市構造図は分かりやすくなった。72 ページの将来都市構造の一覧表でエリアの位置付けが行われ、74 ページの将来都市構造図は A4 から A3 になり見やすくなり、76 ページの「(2) 誘導に向けた方向性」で今後どのような対応が行われるかが示されている。このように3段階の構成になったことが、分かりやすくなった理由の 1 つだと思うが、76 ページの「(2) 誘導に向けた方向性」に羅列する順序は、極力72ページの一覧表と1対1で対応するようにした方が良い。

○佐久間事務局 指摘を踏まえて修正したい。

○西浦委員 90 ページ「持続的なまちづくりのための推進方策」2番目に「(2) データの活用によるまちづくりの推進」が挙げられているが、独立した項目として挙げるべきものなのか。例えば、「(1) 住民主体のまちづくりの推進」の進捗管理としてアンケートをする際、3Dモデルでビジュアルに市民に分かりやすく示すこと等があると思う。「データの活用によるまちづくりの推進」は重要性を踏まえて項目としてあげた意図は分かるが(1)、(2)、(3)と並列で2番目にあげるのではなく、それぞれの項目の中に埋め込むものではないか。

○佐久間事務局 「(2) データの活用によるまちづくりの推進」は、データを根拠として整理する視点と、住民に分かりやすい資料として提示する視点に基づき設定したが、(1)から(4)の中に並列して出すのか、(1)から(3)の項目の中に入れた方が良いのかについては検討したい。

○一針委員 92 ページの「(2) データの活用によるまちづくりの推進」では、ビッグデータを集めてデータベースを作ることに重きが置かれているように見える。65 ページの「2-2 新たな魅力の創造に向けて」では、IoT、ビッグデータ、AI、Society5.0に向けて等が挙げられているが具体策がないため、65 ページに対応する形で92 ページを作り替えると良い。

例えば文京区には大学が沢山あるので、学生にコンテストで「このような新しい世界を創るにはどのようなデータが必要か」等と投げかけ、それに合うデータを集めることができるかを検討する等が考えられる。新たな魅力の創造という目的をはっきりさせ、そこに向けて

データを集めたら良いと思う。

○佐久間事務局 指摘のとおり何のためにオープンデータ化するのかというのは非常に重要な視点だと思う。90 ページの「持続的なまちづくりのための推進方策」として、方策を4つ挙げているが、最初に「(1) 区民等が主体のまちづくりの推進」があり、次にデータの活用ということで、その根拠の整理があり、推進体制や進行管理という流れで整理している。

○村山委員 89 ページの「(2) 戦略的かつ効果的なまちづくり」の PDCA サイクルでは、都市マスタープランや関連する個別計画とその施策や事業が推進できているかという、管理がメインになっていると思う。一方で8ページの「都市マスタープランの構成」には部門間を横断的に整理する3つの視点が示されているが、3つの視点が分野を越えてしっかりと推進できているかをチェックする方法は記載されていない。89ページのPDCAサイクルの中で、そうした記載を工夫してほしい。

○佐久間事務局 部門間を越えたチェックをどのようにするかを含め引き続き検討したい。

○村木会長 脱炭素に関しては、他の行政体の場合、環境部門のデータだけを出すケースが多いが、都市部門でどうするかという話がないと分野を越えたことにはならない。どのように部門間を超えたチェックをするのかについて良く考えた方が良い。

○福富委員 コミュニティバス「Bーぐる」を、地域住民の大事な足として将来都市構造に位置付けると、文京区が一体的につながっているイメージとなると思う。

75 ページの「東京都都市計画区域マスタープランにおける中核的な拠点及び文京区都市マスタープランで定める都市拠点の位置図」についてだが、国際ビジネス交流ゾーンは都の計画で位置づけられているが、明確に線は引かれていないと思う。75ページの図では文京区の範囲が白々としており、元気が湧かない絵のような気がする。

○佐久間事務局 42 ページの「都市づくりのランドデザインにおける地域区分」の図に示すとおり、文京区は東京都の中でも中心地に位置する「中枢広域拠点域」に全域が入っている。その中で「国際ビジネス交流ゾーン」はさらにその中心という位置付けになっており、それを拡大したものが75ページの図面である。

文京区は中枢を担う位置付けになっていると認識している。このような東京都の位置づけを踏まえながら「文京区都市マスタープランで定める都市拠点」等独自の拠点を位置づけていこうと考えている。

○福富委員 中枢広域拠点という形で拾い上げると、文京区全域がカバーできる。国際ビジネス交流ゾーンという形で線引きをして、区民に色分けをして見せる意味がよく分からない。

○佐久間事務局 5章の地域別の方針の中で、区の南側を都心地域として、どちらかと言え

ば高度利用していく地域として位置付けている。その背景を示すために、75 ページの図では、広域的な視点づき、区の南側が国際交流ビジネスゾーンとして位置づけられていることを示している。

「B-ぐる」については、27 ページ等で道路・交通に関するこれまでの成果として記載しているが、4章の部門別の方針の道路交通ネットワーク方針の中でも記載をしていきたい。

○福富委員 コミュニティバスは交通弱者に対する有効な移動手段なので、将来都市構造にも位置付けをした方が良い。

○村木会長 委員の思いを踏まえて検討いただきたい。私も1つ申し上げたい。

1点目は、74 ページの将来都市構造図の都市核の線が分かりにくいので、都市核の範囲が分かるようにしていただきたい。

2点目は、72、73 ページの「(1) 将来都市構造」の「低層住宅地区」の座りが悪い気がする。81 ページの土地利用方針図でも「低層住宅市街地」という名称で低層住宅地区と同じ範囲に色が塗られているが、土地利用方針で位置づけられているのに、将来都市構造として位置づける意味があるのかは疑問である。低層住宅地区の持つ意味や、将来都市構造図に入れるべきかを考えた方が良い。

3点目は、緑と脱炭素のどちらを優先するかについてである。例えば屋上を緑化する場合、屋上に全て緑を入れるのが良いのか、太陽光パネルにするのが良いのか、どちらにプライオリティーを与えるのかを考える必要がある。東京は世界の他都市に比べエネルギーの問題が大きいのに関わらず脱炭素に舵を切っていないことに関して大変気になっている。

○佐久間事務局 都市核については見やすくなるように修正していきたい。

開発によって魅力を創出する場所と、低層住宅地を守っていく場所を示すことでメリハリの効いた都市マスタープランにしたいという思いから、低層住宅地区の範囲を将来都市構造図に示した。拠点として高度利用を図っていくとともに、下町や低層住宅地の魅力も文京区の魅力の1つだと思うが、それをどのように都市マスタープランの中で表現していくかを検討したい。

屋上緑化と太陽光パネルのどちらを優先するか、脱炭素の方向性をどうするかというのは難しい問題だ。文京区の中で緑の量の規制はあるが、太陽光パネルについては今のところは具体的な指標は持っていない。ただし都市マスタープランは将来の方針を扱う計画であるため、4章や5章を検討する際も含めて検討したい。

○村木会長 世界の大都市では、ほとんどゼロカーボンが当たり前の都市開発になっている中で、何も考えない将来計画で良いのかが非常に気になる。将来都市構造図については、先

ほど谷口委員が指摘した都市交流ゾーンの名称も含めて、低層住宅地区の名称について検討してほしい。「下町隣接ゾーン」に並ぶなにかを考えてもいいのかもしれない。

○谷口委員 完成度を上げた方が良くと思う部分がある。

66 ページの「(2) 文京区におけるイノベーションの可能性」の「23 区における大学発ベンチャー企業数」の図について、出典や時点の情報がない。

63 ページの「③来訪者の視点」として「魅力と感ずる項目」のグラフが掲載されているが、アンケート全般にあてはまることだが、アンケート調査の前提の説明が見当たらない。来訪者の視点に関するアンケートは、東京都区内にお住まいの方だけに質問している調査だと認識しているが、来訪者の視点と書くと、海外から来る方も含めて来訪者と思われるので、そうした点からも調査の全体像を加筆した方が良い。

63 ページの「魅力と感ずる項目」のグラフは、49 ページ下のグラフと同じであるが、グラフの解説は 63 ページに掲載されている。両方のページにグラフを掲載する必要があるのかも含めて検討してほしい。

62 ページ等に文字が判読しづらいグラフが幾つかあるので、PDF の貼り付けではない形にしていきたい。

56 ページの神田川と肥後細川庭園の写真のキャプションが逆になっている。このようなことが他にもあるため再度見直していただければありがたい。

○村木会長 指摘の点はチェックをお願いしたい。

○福富委員 港区が 23 区で緑被率が 1 番になったということだが、民間の開発により民間緑地が非常に増えたという事実に基づいていると思う。文京区でも、例えば文京ガーデン等緑を沢山植えている民間開発があるので、その辺りを助長する記載があると良い。

○佐久間事務局 都市マスタープランが完成するまでに緑被率のデータが更新されれば、緑被率のグラフを更新したい。緑と水のこれまでの成果は 30 ページに記載しているが、4 章の「部門別の方針」の中でも、指摘の点も含めて緑の質また量を増やせるような記載としたい。

○新井委員 今回の素案は良く整理されており、皆さんの努力に頭が下がる思いだ。2 点質問があり、1 点目は、素案の 4 章、5 章が次回の協議会で示される予定ということだが、その理由を知りたい。

2 点目は、61 ページの「(2) 3 者の視点からみる文京区の魅力」の内容が、前回の資料では前の方のページにあり、かつ 49 ページの「魅力要素に対する満足度」のグラフと同じページになっていたが、今回の素案では「(2) 3 者の視点からみる魅力」を後ろの方のページに移したため、49 ページのグラフの説明と離れてしまった。

48 ページの「1－6 見直しの視点」については、「基本的な視点」として「文京区の魅力の継承と創造」を独立させ、プラスして「部門間を横断的に整理する視点」が3点あるという整理の仕方をしている。以前は4つの視点が並列的に並んでいたが、「文京区の魅力の継承と創造」と他の3つの視点は違うのではないかと思っていたので、今回は良くなったと思う。

○佐久間事務局 4章と5章を次回協議会で示すこととした理由は、今回の協議会で、序章から3章、6章の大きな枠組みを示して意見をいただき、いただいた意見を踏まえて、4章、5章を作成して、次回協議会で示したいと考えたためである。

○一針委員 74 ページの「将来都市構造図」を現行の都市マスタープランの26 ページと比べると、「みどりの軸」の一番下に「崖線等」が加わっている。将来都市構造として重要な要素であればもう少し説明が必要であり、重要な要素ではないのであれば「崖線等」を新たに入れる必要はないと思う。

○佐久間事務局 幹線道路と神田川、崖線等を「みどりの軸」として位置付け、「みどりの拠点」をつないでいくイメージで、今回の素案では表現をしている。

○一針委員 崖線にはそれほどの緑があるという意識が私にはない。

○佐久間事務局 文京区は坂も崖も多く、東京都全体の計画の中でも崖の緑を重視していく方針がある。それらを踏まえて崖線を重視し、大規模な緑のまとまりをつなぐ緑の軸の中に、幹線道路と並んで崖線を入れている。

○村山委員 現行の都市マスタープランの都市構造図と比較すると、現行の都市マスタープランでは公共公益施設、教育施設が黄色で塗っており、その中で東大や御茶ノ水女子大等の緑が多いところは「まとまった緑の空間」としてさらに緑のハッチが掛けられている。今回の将来都市構造図は公共公益施設や教育施設が黄色で塗っていないため、例えば東大の敷地が公園なのではないかという誤解を招くと思う。公共公益施設や大学のキャンパスが沢山あることが文京区の都市構造の特徴の1つでもあるので、現行マスタープランのように公共公益施設、教育施設を示した方が良い。

○佐久間事務局 公共公益施設については4章で詳しく記述するため、将来都市構造図では緑に関する事項を抽出して表現している。大学も含めて教育施設は文京区の魅力の要素であり、重要であるため、将来都市構造図に載せた方が良いのかも含めて検討したい。

○村木会長 関連して73 ページでは「みどりの拠点」及び「みどりの軸」の説明として「公共公益施設等のまとまった緑」と記載があるため、名称を含めて検討をお願いしたい。

○綾井委員 74 ページの「将来都市構造図」の緑が、どのように構造化されているかについて説明があると良い。例えば、幹線道路を「みどりの軸」に位置づけ並木等で線的な緑地を

形成することや、「みどりの軸」で大規模な緑地をつなぐことによって、「このような将来都市構造を目指している」という説明があると、将来都市構造図が読み取りやすくなる。

○佐久間事務局 72 ページと 73 ページが、74 ページの「将来都市構造図」の説明になっているので、先ほどから出ている名称も含めて説明についても改めて整理、検討したい。

○福富委員 崖線が文京区の地形の特色を表しているということは分かるが、斜面緑地や崖線の緑は開発によって失われる場合が多く、崖線の緑に対する保全方針がないと「将来都市構造図」の中に地形を描いただけに終わってしまう。その辺りはよろしくお願ひしたい。

○佐久間事務局 指摘を踏まえて 4 章、5 章の記載を検討していきたい。

○福本委員 将来都市構造図について議論する中で、このように都市を造っていかうと考えているということが区民としても見て取れるが、素朴な疑問として、2030 年度までにはどのようなことを達成しようと思っているのか。7 年後に向けて実際に実施することが記載されているのは素案のどの部分になるのか。

○佐久間事務局 都市マスタープラン自体は、都市計画の大きな方向性を記載しているので、例えば 2030 年までに具体的にどうするというのを記載するのは難しい。4 章、5 章では具体的な記載をするが、2030 年までにどうなっているかというところまでは、都市マスタープランの中では具体的には出てこないと思う。

一方で、94 ページの「(4) 都市マスタープランの進行管理」では、関連する個別計画によって進捗管理がなされたものについては、都市マスタープランの改訂の際等にバックデータとして示すことになるため、関連する計画や事業の成果は示すことができると思う。

○綾井委員 76 ページ「(2) 誘導に向けた方向性」について、「都市軸・生活軸」の黒丸の 2 つ目に挙げられた「歩きたくなるまちの形成」は良い方向性だ。28 ページの 4 行目に「道路を車中心から人中心の空間として、人々が集い、交流できる場へと転換していく」と詳しい記述があるので、この内容を 76 ページの「誘導に向けた方向性」に盛り込むとさらに良くなると思う。

○佐久間事務局 76 ページの「(2) 誘導に向けた方向性」ではそこまで具体的なことは書けないと思うため、4 章の道路交通ネットワーク方針の中で記載したい。

○村木会長 次回の第 6 回協議会では素案 4 章、5 章について検討する予定になっている。本日は 3 章の将来都市構造図と 6 章について多くの意見が出たが、これを確認する場合は第 7 回協議会しかないということか。

○佐久間事務局 第 6 回協議会では 4 章、5 章も含め素案全体を協議いただける形にしたい。

○西浦委員 次回協議会に地区別構想を検討する予定なので、地域別構想について確認した

い。将来都市構造図はよく整理されていると思うが、今の状態では無味乾燥で実態として見えてこない。地区別構想で味付けされて文京区らしさが滲みだしてくるのだと思う。将来都市構造図の南側の6つの都市拠点は高次な都市機能が集積している都心の一角ということになるので、北側の白山、茗荷谷、江戸川橋辺りで、文京区らしさを確認して読み込んでいくのが良い。

○佐久間事務局 84 ページで示すように、第5章の地域別の方針では、将来都市構造図を踏まえて「(1) まちづくり方針図」として詳細な方針図を最初に示し、その後「(2) まちの現況と将来の姿」「(3) 地区のまちづくり」を文章で整理していく構成としている。最初に74 ページの将来都市構造図を見てから、5章の地域ごとの「(1) まちづくり方針図」を見ると分かりやすい仕上がりにしたい。さらに細かいところについては「(3) 地区のまちづくり」や「(2) まちの現況と将来の姿」で確認していただくイメージで考えている。

○福富委員 「Bーぐる」によって都市拠点を連携させてその機能をグレードアップするという方針が出せないか。文京区は都心に向かって走る地下鉄ばかりで区内の横の連携が弱い。例えば茗荷谷駅周辺の大学と本郷三丁目付近を連携する等横の連携も取りながら区全体でグレードアップしていくという方針があると良い。

○村木会長 指摘の点も含めて将来都市構造図とその説明について検討する必要があると思う。他に意見がなければ、以上で本日の議論は終了させていただきたい。

(3) その他

○村木会長 事務局から連絡事項を説明してほしい。

○佐久間事務局 次第の下の方に今後のスケジュールを記載している。次回協議会では素案全体について協議いただく。2月は素案の議会報告、都市計画審議会での説明、3月はパブリックコメントと説明会、5月に最後の協議会を開催し、6月に議会報告等をした上で7月に公表という予定で考えている。次回協議会は1月15日月曜日14時から第1委員会室で開催する予定となっている。

今回の「文京区都市マスタープランの見直し〔素案〕」についての意見があれば、11月7日火曜日を目途に文京区までメール等で連絡してほしい。

最後に、「文京区都市マスタープラン 2011」の冊子と概要版は席に置いたままにしてほしい。次回も同様に席においておきたい。

○村木会長 以上で都市マスタープラン見直し検討協議会を閉会する。